共生社会論 II

科目ナンバリング　SWS-205
選択　　2単位

石島　健太郎

1. 授業の概要（ねらい）

本講義は死生学の概論である。私たちは死にゆく者と同じ時間を過ごすことがある。また、自身が死にゆくとき、自身の死後も生きていくだろう人と最後の時間を過ごすことがある。さらに、私たちは死者を悼み、あるいは生まれなかった者を想うことによって、彼らと共に生きていくことができる。このように、死は私たちが他者とかかわる媒介のひとつであり、これを通じて私たちの生がいかなるものであるのかを検討するための視座を得るのが本講義の目標である。なお、講義に対する質問・批判は、講義時間中のほか、インターネット上の質問フォームでも受け付ける。それらの質問を踏まえた議論によっても、受講生の理解を促したい。

2. 授業の到達目標

死という現象を社会（学）的視点から捉えること。
自身がもつ死への実存的な問いに対峙するための知性を得ること。

3. 成績評価の方法および基準

期末試験（80%）と積極的な授業参加（20%）による。試験は講義中に扱った内容を適切に理解しているかを評価する。

4. 教科書・参考文献

参考文献
石丸昌彦・山崎浩司編　『死生学のフィールド』　放送大学教育振興会
澤井敦　『死と死別の社会学――社会理論からの接近』　青弓社

5. 準備学修の内容

毎回の講義内容をよく復習すること。授業資料を見直し、自分の言葉で説明できることとできないことを腑分けし、後者については質問や授業中に提示する参考文献に触れることをを通じて理解し、自らの血肉とされたい。

6. その他履修上の注意事項

講義内容への質問・批判等を通じた積極的な授業参加を期待する。また、他者の学習を妨害する行為は厳に慎まれたい。なお、内容の性質上、本講義を受講することによって、死をめぐる自身の経験を思い出したり、自身の死を予期したりといったことが十分に予想されるので、そういったことに強い抵抗を感じる者は受講に向かない。

7. 授業内容

【第1回】　イントロダクション：授業計画および概略を示し、評価基準について詳説する。
【第2回】　死の歴史的現代
【第3回】　社会的死と死を取り巻く諸制度
【第4回】　死のタブー化／死のポルノグラフィ／死のガイドライン
【第5回】　終末期医療
【第6回】　脳死・臓器移植
【第7回】　安楽死・尊厳死
【第8回】　中絶・堕胎・嬰児殺
【第9回】　流産・死産・子どもの死
【第10回】　反出生主義
【第11回】　自死・自殺
【第12回】　死刑
【第13回】　動物利用
【第14回】　質疑応答・試験対策
【第15回】　まとめと試験